



TZ-DR300

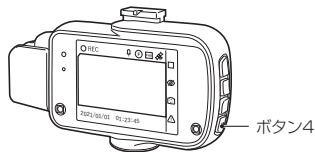
V9TZDR300

取扱説明書

事故が起こったときは

- ① ボタン4を約5秒間長押ししてカメラの電源を切る。
- ② カメラのLEDが消えたことを確認し、microSDカードを取り出す。

 周囲の安全を確認してから作業すること。



もくじ

はじめに	3
安全にお使いいただくために	4
各部名称と付属品	11
液晶画面の表示について	15
カメラの撮影範囲と表示の切替について	17
microSDカードについて	19
microSDカードの取り出し	20
microSDカードの挿入	21
microSDカードのフォーマット(初期化)	22
カメラの電源について	23
使用前の準備	
配線概要図	24
メインカメラの取り付け	25
メインカメラの取り外し	27
初期設定	28

撮る

ドライブモードで撮る	31
駐車監視モードで撮る	37

再生と削除

カメラ本体で再生する	45
カメラ本体で削除する	48
パソコンで再生する／削除する	50

各種設定

設定の変更方法	58
カメラのリセット	63

その他

事故が起こったときは	64
ファームウェアのアップデート	65
記録可能時間(目安)	69
故障かな?と思ったら	71
仕様	75
品番・品名・ファームウェア	79

はじめに

本書について

このたびは、TZ-DR300をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

本書は、TZ-DR300(以下、本製品という)をご使用いただくためのガイドブックです。

本製品を正しく安全にご使用いただくために、本書をよくお読みになり、内容を理解されたうえでご使用ください。

本書はお読みになった後も、すぐに取り出せる場所に保管し、ご使用中に分からないことや不具合やトラブルが起きたときにお役立てください。

最新の取扱説明書は、

下記のWEBサイトよりご確認ください。

<https://www.tacti.co.jp/sds/tz/>



免責事項について

本製品の使用や故障によって生じた損失、および記録された映像やデータの損傷などによる損害については、販売元および製造元はその責任を一切負いません。あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

本製品を安全にお使いいただき、お客様や周りの方、物への被害を防ぐため、必ずお読みください。

注意事項の定義

本書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義(意味)を十分に理解されたうえで、お使いください。



誤った取り扱いをすると、死亡や重症などを負う可能性が想定されるもの



誤った取り扱いをすると、法律違反となる可能性が想定されるもの



誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されるもの



取り扱いにおいて知っていると有益な情報

安全上お守りいただきたいこと

-  破損や故障など、異常な状態のまま使用しないこと。発煙、異音、異臭などが発生した場合は、ただちに使用を中止してください。事故や火災の原因となります。
-  走行前にカメラの取り付け状態を確認すること。脱落、落下などにより、ケガや事故の原因となります。
-  動作確認のための急発進や急ブレーキは行わないこと。ケガや事故の原因となります。
-  使用が禁止されている場所では使用しないこと。機器などの誤作動の原因となるおそれがあります。

 ケーブルや端子部のほこりや汚れは必ず取り除くこと。接触不良などによる感電や火災の原因となります。

 本製品は防じん、防滴、防水仕様ではありません。水をかけたり、濡れた手で操作したり、異物を入れたりしないこと。感電や火災、故障の原因となります。

 本製品内に結露が生じた場合は、使用しないこと。特に急に温度が変化すると、結露が発生しやすくなり、故障や発熱の原因となります。

 本製品の穴やすき間にピンや針金などの金属を入れないこと。感電や故障の原因となります。

 運転者は走行中に本製品を操作および注視しないこと。運転者が走行中にカメラなどの画像表示用装置を注視することは、法律で禁止されています。また事故の原因となるので走行中は絶対に操作および注視しないこと。

 本製品は日本、アメリカ、香港でのみ使用が認められています。それ以外の国や地域では法律に抵触するおそれがあるので使用しないこと。
This product is for use only in Japan, USA, and Hong Kong.

 分解や修理、改造は行わないこと。感電や火災、故障の原因となります。

取り付けについて

 エアバッグの動作を妨げる場所への取り付けや配線はしないこと。動作したエアバッグによる事故やケガ、またはエアバッグが正常に動作しない場合があります。

 取り付けは、本書や取付要領書に従って正しく行うこと。また、走行時や検査時にカメラ本体をマウントから取り外さないでください。誤った取り付けは道路運送車両法の保安基準に違反する場合があります。また事故の原因となります。

 リヤガラスが可動する車両には取り付けないこと。

 リヤガラスがプライバシーガラスの場合やフィルムを貼っている場合は、映像が暗くなることがあります。

 ハイマウントストップランプや後続車のライトにより映像が見づらくなることがあります。

 ラジオやカーナビなど、他の電化製品と電波干渉する場合があります。電波干渉した場合はカメラ位置や電源ケーブルの取り回しを変更してください。

電源(駐車監視ユニット)について

 DC12V/24Vマイナスアース車以外では使用しないこと。故障の原因となります。

 本製品に備わっている2つのモードは、車両の電源状態を認識することで切り替わります。そのため、市販のUSBケーブルやUSB電源ソケットを使用すると動作しない場合があります。必ず本製品の付属品を使用すること。

 カメラの起動後、録画の開始まで最大約15秒かかります。

(ただし、カメラ本体が動作温度範囲を超えている場合、さらに時間を要します。)

 一部の車種では、駐車監視ユニットを接続する常時電源線を間違えやすいため、接続後はしばらく様子を見てカメラが正常に作動することを確認してください。間違えて接続すると設定時間よりも早く駐車監視を終了する場合があります。

 車両の使用状況や環境などによって車両バッテリーの状態は異なります。電圧不足で車両キースイッチがONにならない場合は、バッテリーが劣化している可能性がありますので、新品バッテリーへの交換を推奨いたします。

 一部の車両では、車両キースイッチをOFFした後もアクセサリ電源への電源供給が一定時間続きます。その場合、駐車監視モードに切り替わるまで時間がかかります。

 本体の表面温度が高くなる場合があります。

カメラについて

 本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないこと。

 磁石などの磁気を帯びたものを近くに置かないこと。故障やデータ損傷の原因となります。

 ダッシュボードなど温度が急激に上昇する場所に放置しないこと。変形および火災の原因となります。

 長時間の使用によりカメラ本体が高温になった場合は、直接手で触れないこと。やけどの原因となります。

 お手入れの際、研磨剤入り洗剤、アルコール、有機溶剤入りの洗浄液を使用しないこと。

 レンズや液晶画面に直射日光を長時間当てないこと。レンズや液晶画面が高温になると故障の原因となります。

 液晶画面を強く押したり、爪やペンなど先の尖ったもので操作したりしないこと。液晶画面の故障や破損によるケガの原因となります。

 カメラ本体のアップデート中は電源を切らないこと。故障やデータ損傷の原因となります。

 レンズ表面に汚れが付着したときは、付属のレンズクロスで拭き取ってください。

 本製品は電子部品の特性上、使用条件によりカメラの表面および内部温度が高くなる場合があります。動作温度範囲を超えた場合、製品保護のため動作を停止します。動作が停止した場合は、カメラが動作温度範囲に戻ってから使用を再開してください。

 液晶画面の特性により、極端な高温や低温の状況では画面の表示の動きが遅くなったり、暗くなったり、残像が見えたりすることがありますが、故障ではありません。

 液晶画面の特性により、画面を見る角度によっては表示が見づらいことがありますが、故障ではありません。

 液晶画面の特性により、画面に小さな点やスジ状の模様や明るさのムラなどが見えることがありますが、故障ではありません。

 偏光サングラス使用時は、液晶画面の表示が見えなくなることがあります。

 液晶画面の特性により、一部の画素が点灯しない場合や常時点灯する場合がありますが、故障ではありません。

GPSなどについて

-  GPSなどの電波が受信できない場所では、車両の位置や速度を記録することはできません。
-  GPSなどの電波は、周囲の状況や地理的要因によって受信しにくい場合や受信できない場合があります。
-  GPS衛星はアメリカ国防総省によって管理されており、故意に精度が変更されることなどがあります。
-  本製品の近くにGPS機能を持つ製品やVICS受信機などを設置しないでください。それらの機器や本製品が誤作動を起こす可能性があります。

-  テレビアンテナの近くで使用すると、テレビ受信感度の低下、ちらつき、ノイズの原因となる可能性があります。
-  周囲に障害となる物を設置しないでください。GPSなどの電波受信に悪影響を及ぼすおそれがあります。
-  カメラの起動後、GPSなどの電波を受信するまでに時間がかかります。受信環境、気象条件、車両条件、製品位置により数十秒から数分かかる場合があります。
-  フロントガラスにコーティングなどが施された車両は、GPSなどの電波を受信しにくい場合があります。

録画について

-  記録した映像やデータは、使用方法によっては他人の法的な権利を侵害する可能性があります。
-  本製品で記録した映像やデータの内容、それによって起因した事項については、一切責任を負いません。
-  本製品は事故の証拠としての効力およびナンバーや車種、色などの特定を保証するものではありません。

-  本製品はすべての状況下における録画を保証するものではありません。
-  録画性能や記録時間などは被写体や周辺環境などに影響され、変動する場合があります。
-  使用状況によっては、他の装備品が本製品の録画の妨げになることがあります。
-  赤外線LEDと360°カメラの特性により、被写体によって赤みが強く録画される場合があります。

microSDカードについて

 microSDカードは専用のカード(品番:DC3／4／5)を使用すること。専用以外のカードを使用すると、データ損傷やデータを記録できない場合があります。

 長時間の使用によりmicroSDカードが高温になった場合は、直接手で触れないこと。やけどの原因となります。

 油がついた手や濡れた手でmicroSDカードに触れないこと。データ損傷や故障の原因となります。

 カメラの電源が入っているときは、microSDカードの挿入／取り出しはしないこと。データ損傷や故障の原因となります。

 microSDカードを鋭利な物で傷を付けたり、強い衝撃を与えたりしないこと。データ損傷や故障の原因となります。

 microSDカードのスロット内に異物を入れたり、端子部分に触れたりしないこと。データ損傷や故障の原因となります。

 microSDカードは、必ず正しい向きでカチッと音がするまで差し込むこと。間違った向きで無理に差し込むとデータ損傷や故障の原因となります。

 microSDカードにシールやラベル等を貼らないこと。データ損傷や故障の原因となります。

 以下の場合、microSDカードをフォーマットしてください。(22ページ参照)

- microSDカード内のデータを全て消去したいとき
- カメラからフォーマットを促す通知があったとき

 microSDカードは消耗品です。使用可能期間や書き込み可能回数を超えると記録域の一部が損傷して正常な録画ができなくなることがあります。使用状況や環境により異なりますが、1日2時間程度使用する場合で約1年半を目安に交換することをお勧めします。

 必要なデータは、必ずパソコンなどにバックアップしてください。microSDカードのデータは上書きや消去されます。

 microSDカードは、清潔な乾燥した涼しい場所で保管してください。

駐車監視モードについて

 駐車監視モードにする場合は、必ず本製品が指定する駐車監視ユニットを使用すること。他のコードなどで電源に直接配線すると、車両のバッテリー上がりや故障の原因となります。他のコードなどを使用した配線は絶対にしないこと。

 駐車監視モードによる車両のバッテリー上がりに関して、その責任を一切負いません。

 夜間の駐車監視時に周囲の明かりが無く光源不足の場合は、録画した映像が不鮮明だったり、録画できないことがあります。

 機械式立体駐車場などの振動が多い場所や、外部からの光線が差込むような環境では、衝撃検知・動体検知ともに検知頻度が非常に高くなる可能性があります。使用環境に応じて設定値の変更や、手動でカメラの電源を切ってください。駐車監視モードを有効に設定していても、車両キースwitchのOFF後にカメラのボタン4を長押しすることで、カメラ電源を切ることができます。

その他

 記録した映像やデータは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

 付属のステッカーはフロントガラスや運転席・助手席のサイドガラスには貼り付けないこと。フロントガラスや運転席・助手席のサイドガラスに貼ると保安基準違反となります。また、強粘着のため塗装面への貼り付けにはご注意ください。

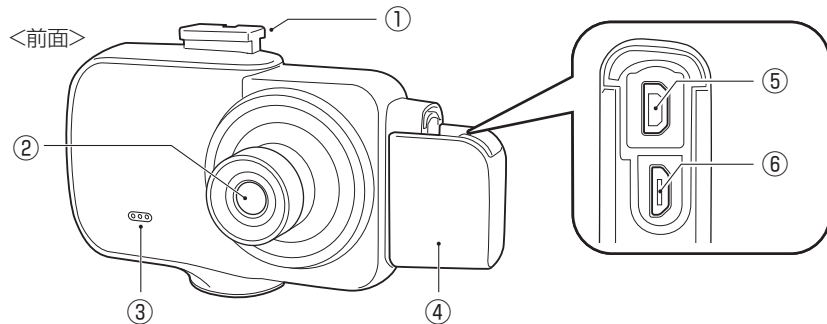
 サンシェード等の日除けを使用する際は、フロントガラスとサンシェードの間にカメラを挟み込まないように設置すること。熱がこもり、カメラの故障や脱落の原因となります。

 本製品に貼り付けてあるラベルをはがさないでください。保証を受けるときなど、製品確認の際に必要な場合があります。

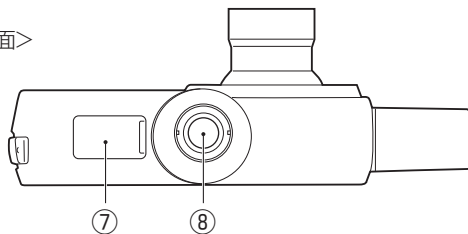
各部名称と付属品

使用前に、必ず内容物を確認してください。

メインカメラ(フロントカメラ+360カメラ)



<底面>

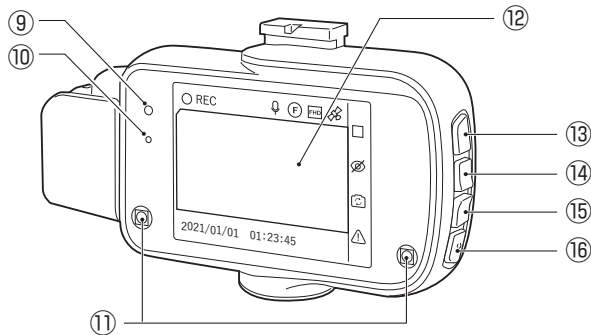


32GB microSDカード (品番:DC3)

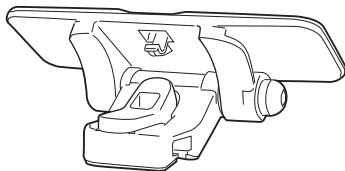
microSDカードはメインカメラに
セットされています。



<背面>



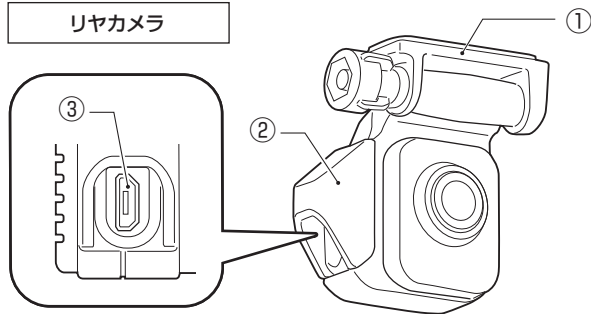
メインカメラマウント



メインカメラ

①	マウントレール
②	フロントカメラ
③	スピーカー
④	ケーブルカバー
⑤	電源ケーブル用端子
⑥	リヤカメラケーブル用端子
⑦	カードスロット
⑧	360カメラ
⑨	LED
⑩	マイク
⑪	赤外線LED
⑫	液晶画面
⑬	ボタン1
⑭	ボタン2
⑮	ボタン3
⑯	ボタン4

リヤカメラ



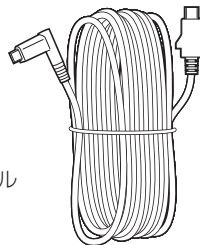
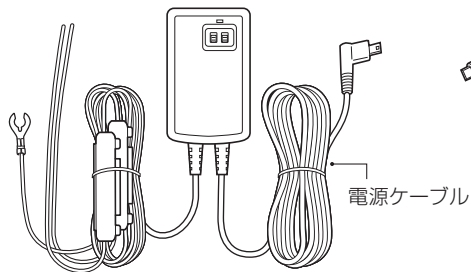
リヤカメラ

①	リヤカメラマウント
②	ケーブルカバー
③	リヤカメラケーブル用端子

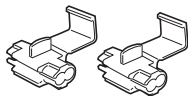
駐車監視ユニット

リヤカメラケーブル 約8.9m

通信ケーブル 約0.4m



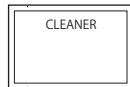
ワンタッチコネクター 2個



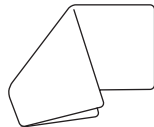
六角レンチ



脱脂クリーナー



レンズクロス



ステッカー



取扱説明書(本書)

トラブル
シューティング
ガイド

オプション

必要に応じて別途お買い求めください。(2021年12月現在)

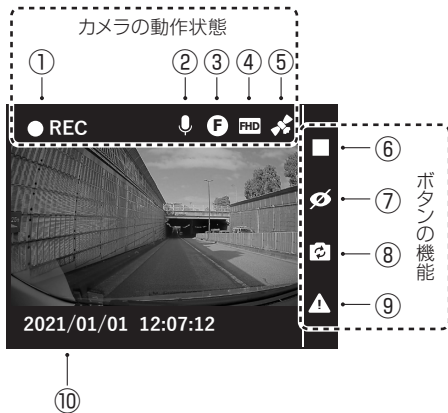


32GB/64GB/128GB microSDカード
(品番:DC3/4/5)

液晶画面の表示について

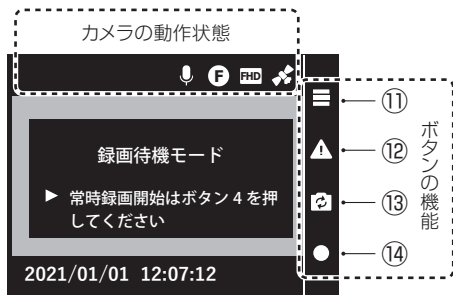
📷 カメラの動作状態を画面の上側に表示します。

📷 4つのボタンの機能を画面の右側に表示します。ボタンの機能は表示する画面によって異なります。



録画画面

①	録画中であることを示しています
②	音声記録を設定していることを示しています
③	表示中の映像を示しています F :フロントカメラの映像 360 :360カメラの映像 R :リヤカメラの映像 FR :フロントカメラとリヤカメラの映像
④	フロントカメラの録画画質を示しています FHD :高画質(1920×1080) HD :低画質(1280×720)
⑤	GPSの受信状態を示しています 点灯 :受信しています 点滅 :受信していません 消灯 :GPS設定が無効のとき
⑥	録画を停止し、録画待機画面に切り替わります(ボタン1)
⑦	画面の表示／非表示を切り替えます(ボタン2)
⑧	表示するカメラ映像を切り替えます(ボタン3)
⑨	手動録画を開始します(ボタン4)
⑩	日時



録画待機画面

録画画面の状態ボタン1を押すと録画待機画面に切り替わります。

⑪	メニュー画面に切り替わります(ボタン1)
⑫	手動録画を開始します(ボタン2)
⑬	表示するカメラ映像を切り替えます(ボタン3)
⑭	常時録画を開始します(ボタン4)



メニュー画面

録画待機画面の状態ボタン1を押すとメニュー画面に切り替わります。

⑮	前の画面に戻ります(ボタン1)
⑯	選択項目を上に移動します(ボタン2)
⑰	選択項目を下に移動します(ボタン3)
⑱	決定します(ボタン4)

画面内に設定項目が複数表示された場合は、最後の項目まで選択してボタン4で決定してください。

カメラの撮影範囲と表示の切替について

カメラのボタン3で映像を表示することができます。

 映像が切り替わると表示中の映像を示すアイコンも切り替わります。



フロントカメラの撮影範囲

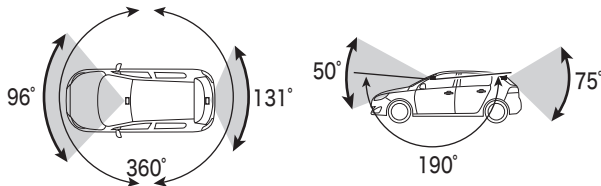
撮影範囲は水平96°、垂直50°です。

360カメラの撮影範囲

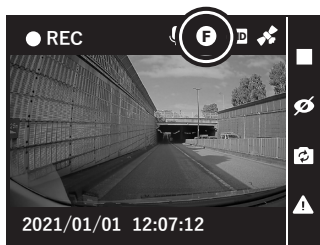
撮影範囲は水平360°、垂直190°です。

リヤカメラの撮影範囲

撮影範囲は水平131°、垂直75°です。



アイコンが **F** のときは
フロントカメラの映像を表示します。

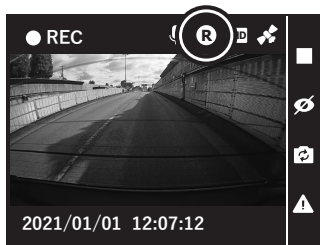


アイコンが **360** のときは360カメラの映像を
上下に分割して表示します。

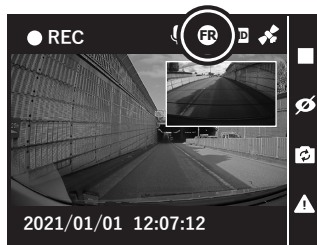
 広角な魚眼レンズのため映像がゆがんで
見えますが異常ではありません。



アイコンが **R** のときは
リヤカメラの映像を表示します。



アイコンが **FR** のときはフロントカメラの映像を
大きく、リヤカメラの映像を小さく表示します。



microSDカードについて 9ページの注意事項もお読みください。

 カメラの電源が入っているときは、microSDカードの挿入／取り出しはしないこと。データ損傷や故障の原因となります。カメラの電源を切ってから挿入／取り出しを行ってください。

 本製品を使用するときは、microSDカードが必要です。

 メインカメラにセットされているmicroSDカードはTZ-DR300専用です。

 以下の場合、microSDカードをフォーマットしてください。(22ページ参照)

- microSDカード内のデータを全て消去したいとき
- カメラからフォーマットを促す通知があったとき

 microSDカードは消耗品です。使用可能期間や書き込み可能回数を超えると記録域の一部が損傷して正常な録画ができなくなることがあります。使用状況や環境により異なりますが、1日2時間程度使用する場合で約1年半を目安に交換することをお勧めします。書き込み速度の低下など、microSDカードの寿命による不具合が発生すると、カメラからフォーマットやカードの交換を促す通知があります。

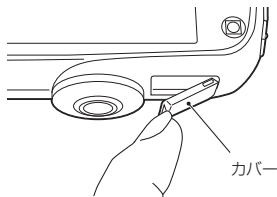
 必要なデータは、必ずパソコンなどにバックアップしてください。microSDカードのデータは上書きや消去されます。

 出荷時はあらかじめmicroSDカードがセットされています。

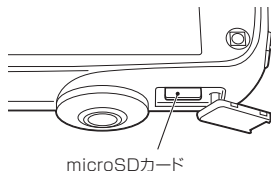
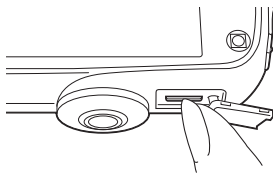
microSDカードの取り出し

- 1** カメラの電源が切れていることを確認し、カードスロットのカバーを開ける。

 カメラの電源が入っているときは、電源を切ること。(23ページ参照)



- 2** microSDカードを「カチッ」と音がするまで押し、少し飛び出してきたら引き抜く。

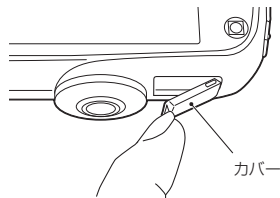


- 3** カードスロットのカバーを元に戻す。

microSDカードの挿入

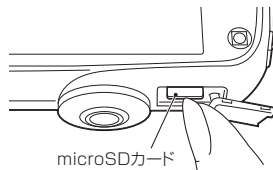
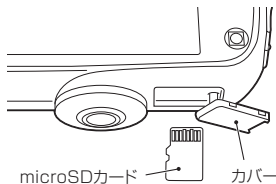
- 1 カメラの電源が切れていることを確認し、カードスロットのカバーを開ける。

⚠ カメラの電源が入っているときは、電源を切ること。
(23ページ参照)



- 2 microSDカードを「カチッ」と音がするまで差し込む。

👉 金色の端子面を液晶画面側にして真っすぐに差し込んでください。



- 3 カードスロットのカバーを元に戻す。

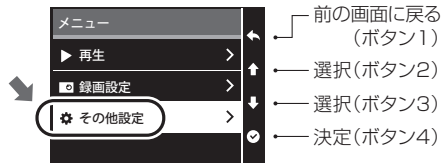
microSDカードのフォーマット(初期化)

microSDカード内のファイルをすべて消去し、フォルダ構成を最適化します。

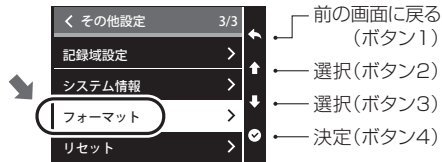
 microSDカードをフォーマットすると、すべてのファイルが消去されます。必要なデータは、あらかじめパソコンなどにデータをバックアップしてください。

1 メニュー画面を表示する。

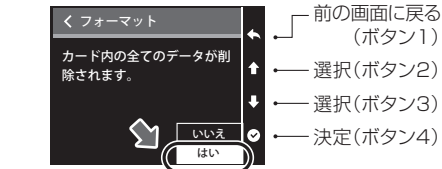
 録画中の場合はボタン1を押して録画を停止し、さらにボタン1を押すとメニュー画面に切り替わります。



2 ボタン2／ボタン3で「その他設定」を選択し、ボタン4で決定する。



3 ボタン2／ボタン3で「フォーマット」を選択し、ボタン4で決定する。



4 ボタン2／ボタン3で「はい」を選択し、ボタン4で実行する。

 フォーマットが完了するとメニュー画面に戻ります。

カメラの電源について

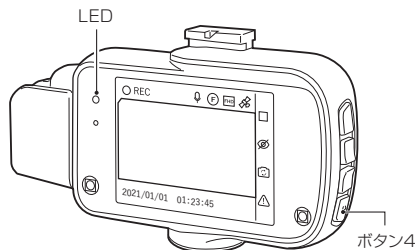
 カメラの電源が入るとLEDが点灯し液晶画面が表示されます。カメラの電源が切れるとすべてのLEDが消灯し液晶画面が消えます。

駐車監視設定を有効にしている場合

- 車両のキースイッチがONのときにボタン4を約5秒間長押しするとカメラの電源が切れ、再度ボタン4を押すとカメラの電源が入ります。
- 車両のキースイッチをOFFにすると駐車監視モードに切り替わるため液晶画面は消えますが、カメラの電源は切れません(LEDは点灯しています)。駐車監視モード中にカメラの電源を切る場合は、ボタン4を約5秒間長押ししてください。
- 駐車監視モード中にボタン4を長押ししてカメラの電源を切った後に駐車監視モードを再開する場合は、ボタン4を押します。

駐車監視設定を無効にしている場合

- カメラの電源を入れる／切る方法は2通りあります。
 - ④ 車両のキースイッチをONにするとカメラの電源が入り、キースイッチをOFFにするとカメラの電源が切れます。
 - ⑧ 車両のキースイッチがONのときにボタン4を約5秒間長押しするとカメラの電源が切れ、再度ボタン4を押すとカメラの電源が入ります。

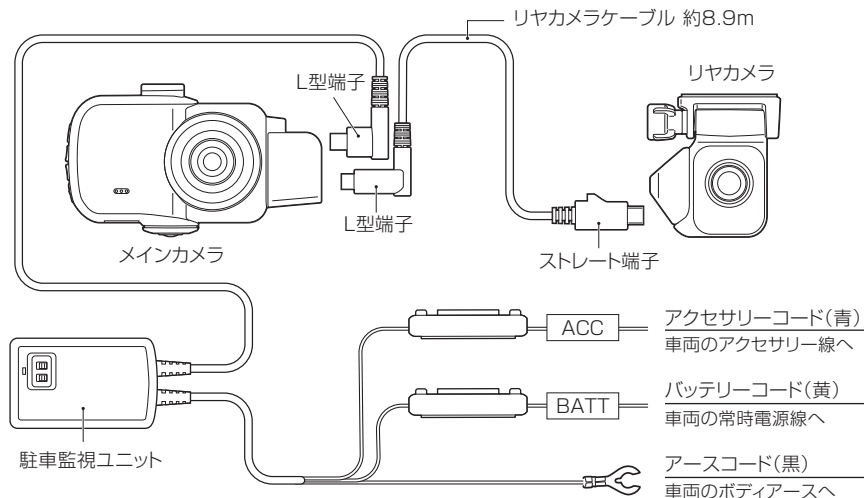


使用前の準備

配線概要図

⚠ 取り付けの際は、必ず本製品の付属品またはオプション品を使用すること。

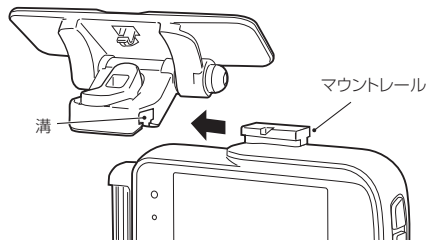
🔌 通信ケーブルはメインカメラとパソコンを接続するためのものです。車両では使用しません。



メインカメラの取り付け

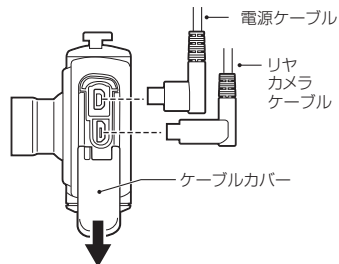
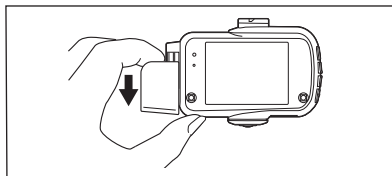
1 メインカメラマウントの溝にマウントレールを差し込む。

⚠ 「カチッ」と音がするまで差し込み、カメラが抜けないことを確認してください。

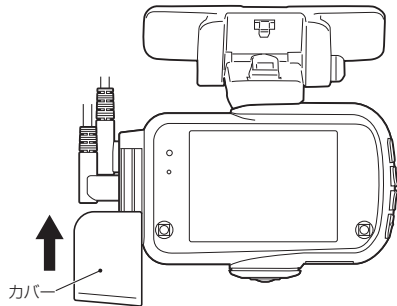


2 メインカメラのケーブルカバーを下方方向にスライドし、電源ケーブル、リヤカメラケーブルの順に差し込む。

👉 ケーブルカバーに指をかけるとスムーズにスライドできます。



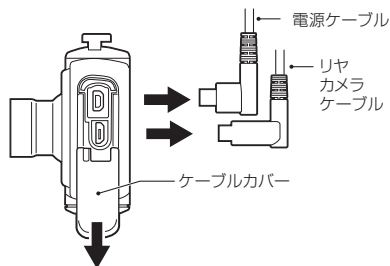
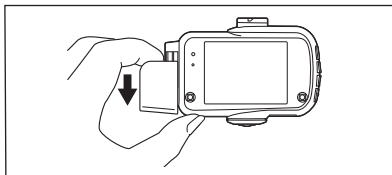
- 3** メインカメラのカバーを「カチッ」と音がするまでスライドさせる。



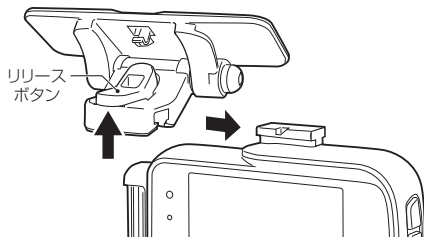
メインカメラの取り外し

- 1** メインカメラのケーブルカバーを下方方向にスライドし、電源ケーブル、リヤカメラケーブルを外す。

 ケーブルカバーに指をかけるとスムーズにスライドできます。



- 2** メインカメラマウントのリリースボタンを押し上げながらカメラを引き抜く。

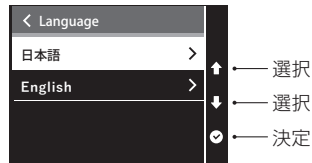


初期設定

 初めて使用する場合、もしくはリセットを行った場合に初期設定画面が表示されます。

 カメラの設定はGPSなどの電波を受信しやすい屋外などで行ってください。

1 ボタン2／ボタン3で使用する言語を選び、ボタン4で決定する。



2 ボタン2／ボタン3で「アジア」、「日本」、DST:「オフ」をそれぞれ選び、ボタン4で決定する。

 GPSなどの電波を受信すると日時も自動的に設定されます。

 DSTとはサマータイム(夏時間)のことです。日本で使用するときにはオフにしてください。



3 ボタン2／ボタン3で優先する記録域を選び、ボタン4で決定する。

録画したデータは内容に合わせてそれぞれの録画域（フォルダ）に自動的に振り分けて保存されます。録画域（フォルダ）の容量の比率は変更することができます。

録画域（フォルダ）のデータがいっぱいになると古いデータから順に上書きされます。



イベント録画域とは(初期値)

ドライブモード中の衝撃録画や手動録画の記録域。

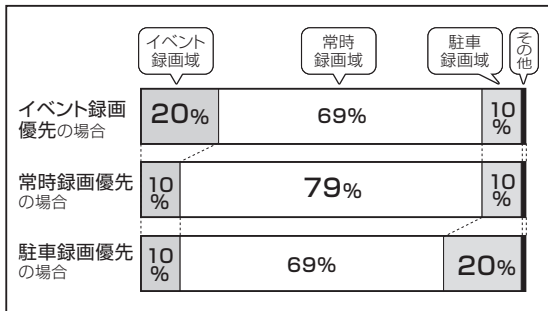
常時録画域とは

ドライブモード中の常時録画の記録域。

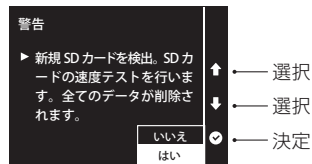
駐車録画域とは

駐車監視モード中の衝撃録画やモーション録画の記録域。

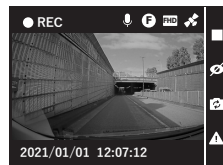
■記録域の容量比率



4 新規SDカード検出の通知が表示されるので、ボタン2／ボタン3で「はい」を選択し、ボタン4で実行する。



 フォーマットが正常に完了すると「操作完了」と表示され、常時録画を開始します。



撮る

本製品には「ドライブモード」と「駐車監視モード」があります。

ドライブモードで撮る

車両のキースイッチがONの状態です。

 事前に録画の目的や使用方法に合わせて設定を変更することをお勧めします。(58～59、61～62ページ参照)

1 車両のキースイッチをONにする。

 カメラが起動してから最大15秒後に常時録画を開始します。カメラ本体が動作温度範囲を超えている場合は、録画開始まで時間がかかる場合があります。

2 撮る(自動で録画を開始します)。

 録画したデータは内容に合わせてそれぞれの録画域(フォルダ)に自動的に振り分けて保存されます。録画域(フォルダ)の容量の比率は変更することができます。(29、58、62ページ参照)

 録画域(フォルダ)のデータがいっぱいになると古いデータから順に上書きされます。

3 車両のキースイッチをOFFにする。

 ドライブモードによる録画を終了し、駐車監視モードに切り替わります。

ドライブモード時の録画の種類

カメラの状態	録画の種類	内 容	使用カメラ	データの保存先
録画中	常時録画	カメラの電源が入ってから切れるまでの30秒ごとの映像	フロントカメラ 360カメラ リヤカメラ	常時録画域 (NORMALフォルダ)
	衝撃録画	衝撃検知前10秒と検知後10秒を含む30秒ごとの映像		イベント録画域 (EVENTフォルダ)
	手動録画	手動録画の指示前30秒と指示後30秒を含む30秒ごとの映像		イベント録画域 (EVENTフォルダ)
録画待機 モード	手動録画	手動録画の指示後30秒の映像		イベント録画域 (EVENTフォルダ)

●衝撃録画とは

カメラのGセンサーが衝撃を検知したときの映像。衝突事故など強い衝撃があったときのシーンをイベント録画域(EVENTフォルダ)に記録します。

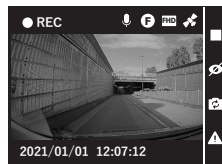
●手動録画とは

イベント録画域(EVENTフォルダ)に記録するために手動で録画を指示した映像。あおり運転されたシーンなど衝撃が無い場合でも手動録画しておくと、再生時に録画したデータを探しやすくなります。

常時録画

- カメラの電源が入ってから切れるまでの映像を30秒ごとに記録します。
- 常時録画域(NORMALフォルダ)のデータがいっぱいになると古いデータから順に上書きし、新しいデータの記録を続けます。
- 常時録画中にボタン1を押すと録画を停止し、録画待機モードになります。
- 録画待機モード中にボタン4を押すと常時録画を再開します。

常時録画中

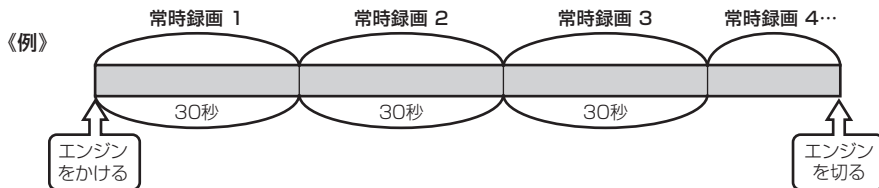


- — 停止
- 👁 — 画面表示／非表示
- 📷 — 画面切り替え
- ⚠ — 手動録画

録画待機モード中



- ☰ — メニュー表示
- ⚠ — 手動録画
- 📷 — 画面切り替え
- — 常時録画



衝撃録画

- 常時録画中に衝撃を検知すると、画面と音声で通知し、検知前10秒と検知後10秒を含む30秒ごとの映像を最大で2つ記録します。
- 衝撃録画中は画面左下に赤色のアイコンが表示され、衝撃録画後は自動で常時録画に戻ります。
- 衝撃録画中にボタン1を押すと録画を停止し、録画待機モードになります。

 車両や運転の状況に合わせてGセンサーの感度を5段階で設定できます。(58～59ページ参照)

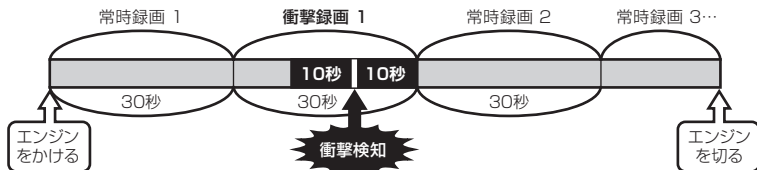
通知画面



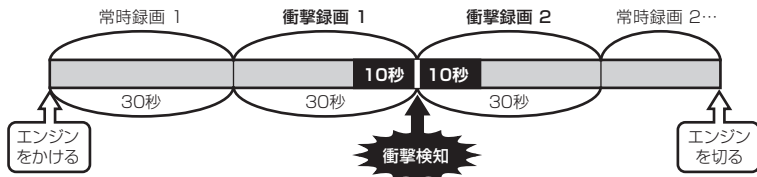
衝撃録画中



《例1》



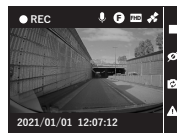
《例2》



手動録画

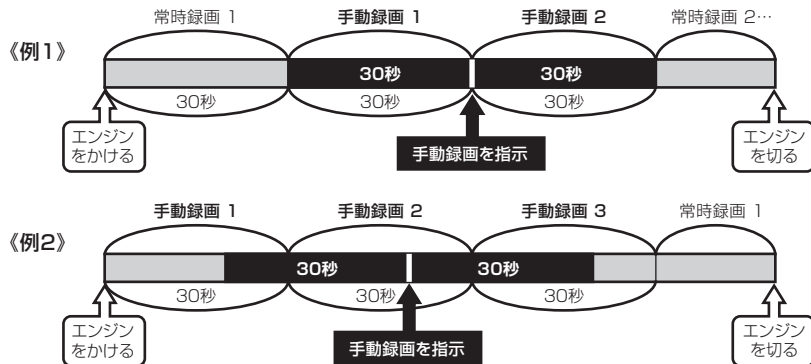
- 常時録画中にボタン4を押すと、手動録画の指示前30秒と指示後30秒を含む30秒ごとの映像を最大で3つ記録します。
- 手動録画中は画面左下に赤色のアイコンが表示され、手動録画後は自動で常時録画に戻ります。
- 手動録画中にボタン1を押すと録画を停止し、録画待機モードになります。

常時録画中



手動録画

手動録画中



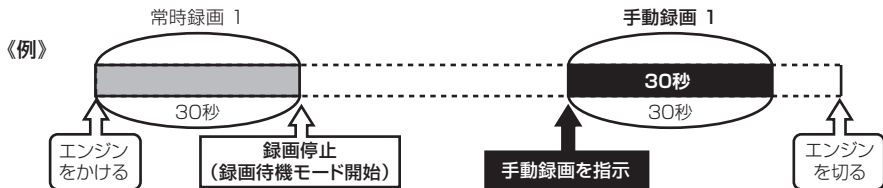
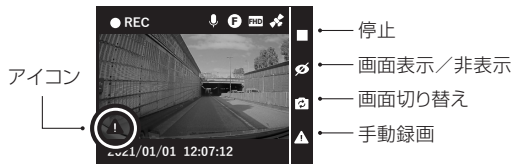
録画待機モード中の手動録画

- 録画待機モード中にボタン2を押すと、その後30秒の映像を記録します。
- 手動録画中は画面左下に赤色のアイコンが表示され、手動録画後は自動で録画待機モードに戻ります。
- 手動録画中にボタン1を押すと録画を停止し、録画待機モードになります。

録画待機モード中



手動録画中



駐車監視モードで撮る

駐車監視モードで使用する前に、設定を行ってください。

駐車監視モードの有効化確認

- 駐車監視ユニットの取付後、車両キースイッチがONの状態ではカメラの液晶メニューから「録画設定」→「駐車監視」→「有効」に設定されていることを確認してください。(58、60ページ参照)
- 駐車監視ユニットを接続中でも、長期間乗車しない場合など、駐車監視機能を使わない場合は駐車監視機能を無効にできます。(58、60ページ参照)

駐車時

車両キースイッチをOFFにすると、駐車監視モードに自動で切り替わります。

駐車監視モードに切り替わると液晶画面は消えますが、カメラのLEDは点灯しています。

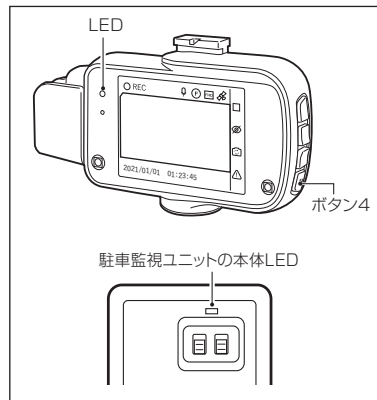
- 駐車監視モード中は、駐車監視ユニットの本体LEDが消灯します。

走行時

車両キースイッチをONにすると、一旦カメラの電源がOFFになった後、ドライブモードに自動で切り替わります。

ドライブモードに切り替わると液晶画面が表示され、常時録画を開始します。

- ドライブモード中は、駐車監視ユニットの本体LEDが点灯します。

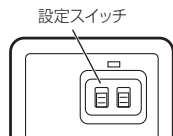


電圧監視機能

車両のバッテリー上がりを防止するため、バッテリーの電圧値が設定値より約10分間連続して下回った場合に、バッテリーからの電源供給を停止し、動作を停止する機能です。

車両のバッテリーの状態に合わせて、下記の手順で設定してください。

1. 車両キースイッチをOFFにします。
2. 駐車監視ユニットの設定スイッチを操作します。



電 圧	11.8V (23.6V)	12.0V (24.0V)	12.2V (24.4V)	★12.4V (★24.8V)
設 定 ス イ ャ ッ				

★：初期設定値

●監視電圧の設定値は、状況により車両バッテリーの電圧値と一致しないことがあります。目安としてお使いください。

メモ

車両の使用状況や環境などによって車両バッテリーの状態は異なります。

下記のような場合には、車両バッテリーが弱っている可能性があります。その場合は、車両バッテリーの交換をおすすめします。

- バッテリーの使用年数が長い
- 多くの電装品が装着されている
- 長期間エンジンをかけていない
- 寒冷地で使用している

3. 車両キースイッチをONにし、30秒ほどしたら再度車両キースイッチをOFFにします。カメラが駐車監視モードで作動していたら、設定完了です。

1 車両のキースイッチをOFFにする。

 約1分後(降車時非起動時間の初期設定)に駐車監視を開始します。

 駐車監視モード中は液晶画面は消えますがカメラの電源は切れません(LEDは点灯しています)。

2 駐車監視中(衝撃や動体を検知すると自動で録画を開始します)。

 録画したデータは駐車録画域(PARKINGフォルダ)に保存されます。
録画域(フォルダ)の容量の比率は変更することができます。(29、58、62ページ参照)

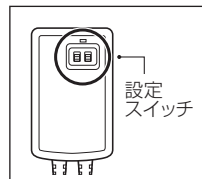
 録画域(フォルダ)のデータがいっぱいになると古いデータから順に上書きされます。

■駐車監視中のカメラLED表示

カメラLED	状態	内容
緑点滅	降車時非起動時間	車両キースイッチOFF後の降車時非起動時間中です
緑点灯	駐車監視中	駐車監視機能が働いています
緑点滅 (早い)	駐車監視 録画中	衝撃録画・動体検知録画などの録画中です
消灯	動作停止	駐車監視設定時間の経過後、または設定により駐車監視モードがオフになっていてカメラは動作していません

3 駐車監視モードを終了する。

- 監視設定時間が経過するとカメラの電源が切れます。
- 駐車監視モード中に乗車すると衝撃録画やモーション録画を開始する場合がありますが、それらの録画中に車両のキースイッチをONにすると録画を停止し、データを消去します。
- 車両のキースイッチをONにしてドライブモードを開始すると、駐車監視モード中に録画があった場合は「駐車録画があります」の音声流れます。
- 設定時間内であっても、駐車監視ユニットの電圧監視機能で設定した電圧値を下回った場合、バッテリー上がりを防ぐため強制的にカメラの電源が切れます。
- カメラが高温になると、温度上昇を抑えるために前後録画から後録画に切り替わったり録画を停止したりします。夏場に駐車監視モードで撮る場合はできるだけ温度が上がりにくい場所に駐車することをお勧めします。



駐車監視モード時の録画の種類

駐車監視時の録画モード	録画の種類	内 容	使用カメラ	データの保存先
前後録画	衝撃録画	衝撃検知前10秒と検知後30秒(合計40秒)の映像	フロントカメラ 360カメラ リヤカメラ	駐車録画域 (PARKINGフォルダ)
	モーション録画	動体検知前10秒と検知後30秒(合計40秒)の映像		
後録画	衝撃録画	衝撃検知の約2秒後から30秒の映像	360カメラ	
	モーション録画	動体検知の約2秒後から30秒の映像		
前後録画 ＋ 後録画	前後録画と後録画を組み合わせた駐車監視ができます。			駐車録画域 (PARKINGフォルダ)

●衝撃録画とは

駐車監視中にカメラのGセンサーが衝撃を検知したときの映像。駐車中に当て逃げやドアパンチされたときなどのシーンを駐車録画域(PARKINGフォルダ)に記録します。

●モーション録画とは

駐車監視中に360カメラで捉えた映像の変化を動体として検知したときの映像。車両周辺の様子を駐車録画域(PARKINGフォルダ)に記録します。前後録画の場合はフロントカメラ・360カメラ・リヤカメラで、後録画の場合は360カメラのみで録画を行います。

 映像の変化を動体として検知するため、以下のような状況も動体として検知します。不要なモーション録画をしないために普段利用する駐車場の周囲に常に動いている物体がないこと、明るさの変化がないことを確認してください。動体検知機能は周囲の状況や環境、気象により左右されます。

- ・ 照明や日差しの変化
- ・ 風で揺らぐ樹木や草木、のぼり

 断続的に動体を検知すると頻繁にモーション録画を行うため、駐車録画域(PARKINGフォルダ)にある衝撃録画などの重要なデータが上書きされる可能性があります。

 初期設定では「動体検知」の設定が無効になっています。モーション録画を行う場合は「動体検知」を有効にしてください。また、記録域設定を「駐車監視優先」に設定しておくことをお勧めします。(29、58、60、62ページ参照)



駐車監視モードの監視設定時間について

目的に合わせて前後録画／後録画／前後録画＋後録画が選択できます。また、前後録画を選択した場合は、監視時間を設定できます。(58、60ページ参照)

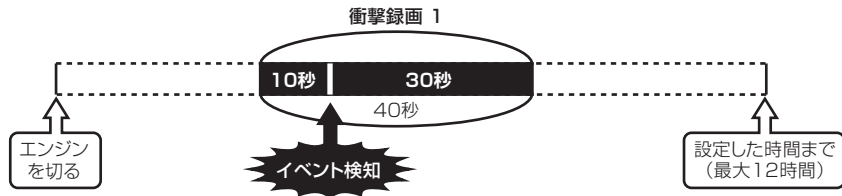
駐車監視時の録画モード		監視設定時間	駐車監視の主な目的
前後録画	フロントカメラ 360カメラ リヤカメラ	0.5時間／1時間／3時間	買い物や用事など外出中の駐車監視
		6時間／12時間	通勤や通学などの駐車中の監視
後録画	360カメラのみ	最大48時間	在宅中などの長時間の監視 (2日以上車に乗らない)
前後録画 ＋ 後録画	フロントカメラ 360カメラ リヤカメラ ＋ 360カメラ	前後録画3時間 ＋ 後録画24時間	外出時の短時間監視＋在宅中の監視
		前後録画12時間 ＋ 後録画6時間	通勤や通学などの駐車中の監視＋在宅中の監視

降車時非起動時間について

降車時の振動による不要な録画を防ぐために、車両のキースイッチをOFFにしてから1分経過後に駐車監視を開始します。ご家族のサポートや荷下ろしなどで降車に時間がかかる場合は、5分後または10分後に変更が可能です。(58、60ページ参照)

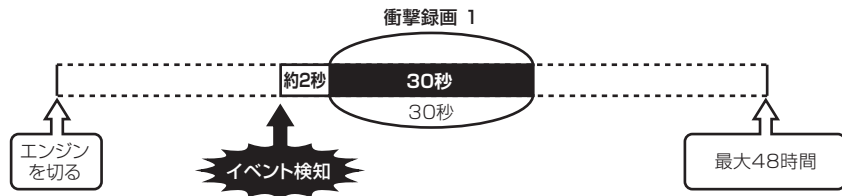
前後録画時の衝撃／モーション録画

- イベント(衝撃／動体)を検知すると、検知前10秒と検知後30秒を含む40秒の映像を記録します。イベントを連続して検知した場合は映像の記録時間が変わります。
- 衝撃／モーション録画後は監視モードに戻ります。



後録画時の衝撃／モーション録画

- イベント(衝撃／動体)を検知すると、検知の約2秒後に30秒の映像を記録します。
- 衝撃／モーション録画後は監視モードに戻ります。



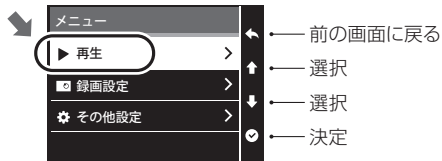
再生と削除

録画した映像は、メインカメラまたはパソコンで再生／削除できます。

カメラ本体で再生する

1 メニュー画面を表示する。

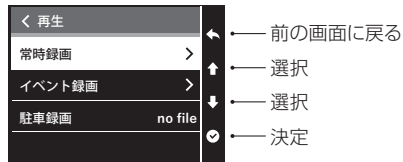
 録画中の場合はボタン1を押して録画を停止し、さらにボタン1を押すとメニュー画面に切り替わります。



2 ボタン2／ボタン3で「再生」を選択し、ボタン4で決定する。

3 ボタン2／ボタン3で再生したい映像が入っている録画域を選択し、ボタン4で決定する。

録画域	録画の種類
常時録画	ドライブモード中の常時録画
イベント録画	ドライブモード中の衝撃録画 ドライブモード中の手動録画
駐車録画	駐車監視モード中の衝撃録画 駐車監視モード中のモーション録画



4 ボタン2／ボタン3で再生したい映像を選択し、ボタン4で決定する。

 映像は新しい順に並んでいます。



- ← 前の画面に戻る
- ← 選択
- 選択
- ✓ 決定

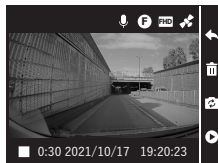
録画日時
録画時の音声の有無
録画時に使用したカメラ
録画時のフロントカメラの画質
録画時のGPS受信状況

5 ボタン4を押して再生する。

 ボタン3を押すとフロントカメラ、360カメラ、リヤカメラで撮影した映像に切り替えることができます。

 映像の細部を確認したいときはパソコンで再生してください。

 パソコン用の専用ソフトを使用すると、フロントカメラ・360カメラ・リヤカメラの同時再生、映像の加工、地図上の位置、速度の確認などが行えます。(50ページ参照)



- ← 前の画面に戻る
- 🗑 削除
- 📷 表示映像切り換え
- ▶ 再生

一時停止

再生中にボタン4を押すと一時停止します。
再度ボタン4を押すと続きから再生を開始します。

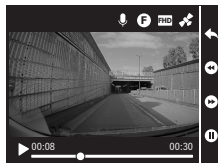
早戻し／早送り

再生中にボタン2を押し続けると早戻しします。
ボタン3を押し続けると早送りします。

コマ戻し／コマ送り

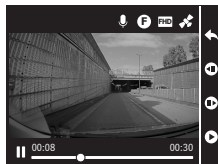
一時停止中にボタン2を押すとコマ戻しします。
ボタン3を押すとコマ送りします。
それぞれボタンを押し続けると連続でコマ戻し／
コマ送りします。

再生中



- 前の画面に戻る
- 早戻し
- 早送り
- 一時停止

一時停止中

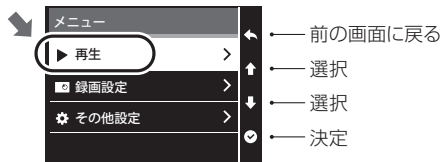


- 前の画面に戻る
- コマ戻し
- コマ送り
- 再生

カメラ本体で削除する

1 メニュー画面を表示する。

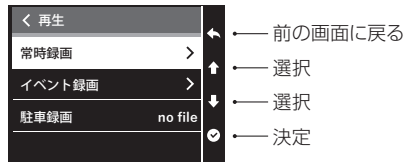
 録画中の場合はボタン1を押して録画を停止し、さらにボタン1を押すとメニュー画面に切り替わります。



2 ボタン2／ボタン3で「再生」を選択し、ボタン4で決定する。

3 ボタン2／ボタン3で削除したい映像が入っている録画域を選択し、ボタン4で決定する。

録画域	録画の種類
常時録画	ドライブモード中の常時録画
イベント録画	ドライブモード中の衝撃録画 ドライブモード中の手動録画
駐車録画	駐車監視モード中の衝撃録画 駐車監視モード中のモーション録画



4 ボタン2／ボタン3で削除したい映像を選択し、ボタン4で決定する。

 映像は新しい順に並んでいます。

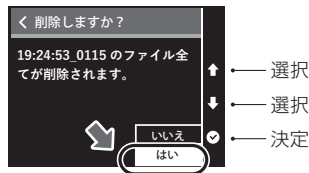


5 ボタン2で「削除」を決定する。



6 ボタン2／ボタン3で「はい」を選択し、ボタン4で実行する。

 選択したファイルの全カメラの映像を削除します。



パソコンで再生する／削除する

1 パソコンに専用ソフトをダウンロードする。

 専用ソフトは無料です。下記WEBサイトからダウンロードしてください。

<https://www.tacti.co.jp/sds/tz/>



2 ダウンロードしたファイルを以下の手順でパソコンにインストールする。

- ①ダウンロードした圧縮ファイル(zipファイル)を右クリックし、表示メニューから「すべてを展開」を選び解凍する。
- ②フォルダ内にある「TZDR300Setup.msi」を実行する。
- ③インストール完了後、スタートアップに「TZ-DR300」が追加されます。



3 ①②いずれかの方法でパソコンに接続する。

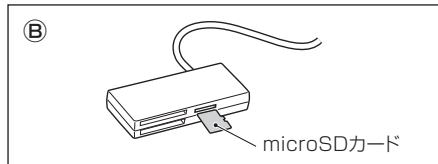
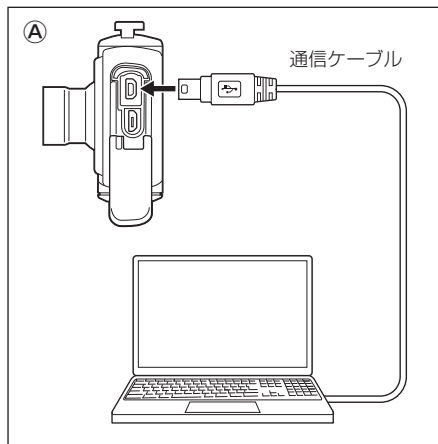
① 付属の通信ケーブルでメインカメラとパソコンを接続する。

👉 メインカメラからすべてのケーブルを取り外し、通信ケーブルを電源ケーブル端子に差し込む。(27ページ参照)

👉 通信ケーブルをパソコンに接続するとカメラの液晶に「PC接続完了」が表示されます。



② メインカメラからmicroSDカードを取り出し、市販のカードリーダーなどを使ってパソコンに接続する。



4 専用ソフトを起動し、再生したい映像が入っているフォルダを選択する。

 128GBのmicroSDカードの場合、データの読み込みに時間が掛かります。



再生する場合

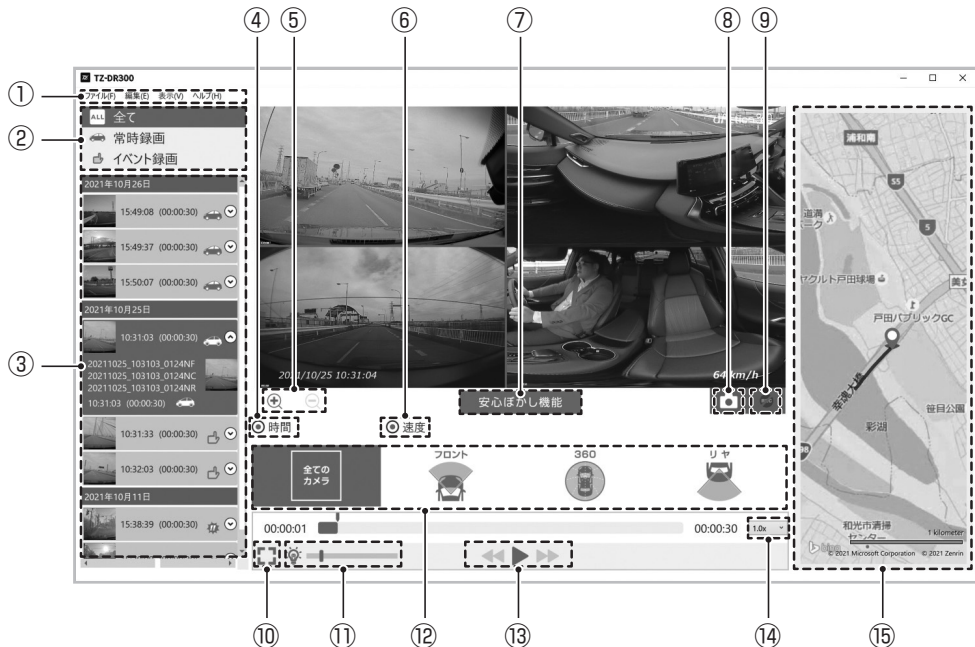
再生したい映像を選択し、再生ボタンをクリックする。(53、54ページ参照)

削除する場合

削除したい映像を選択し、右クリックまたはメニューバーの「編集」タブから削除する。(53、54ページ参照)



専用ソフトの機能

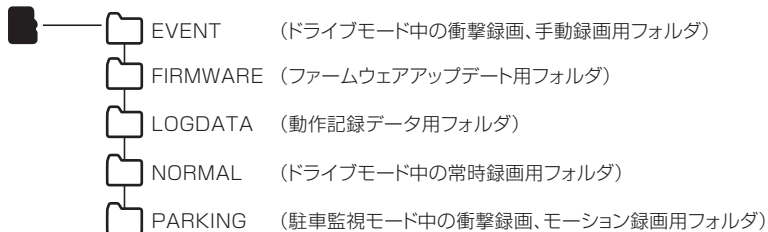


①	メニューバー
②	再生可能なファイルが保存されているフォルダです。 全て:全ての録画を一覧表示します。 常時録画:NORMALフォルダにある常時録画を一覧表示します。 イベント録画:EVENTフォルダにある衝撃録画と手動録画を一覧表示します。 駐車録画:PARKINGフォルダにある衝撃録画とモーション録画を一覧表示します。
③	選択したフォルダに保存されている録画を時系列順に表示します。
④	録画時の日時を画面上に表示します。
⑤	再生する映像を拡大、縮小して表示します。
⑥	録画時の速度を画面上に表示します。(位置情報を取得している場合)
⑦	マウスのボタンを押しながら動かすことでぼかし加工ができます。ぼかしの強さも調節できます。
⑧	再生画面に表示している映像をキャプチャしてパソコンに保存します。
⑨	再生画面に表示している映像をスクリーン録画してパソコンに保存します。
⑩	再生する映像を全画面表示します。
⑪	再生する映像の明るさを調節できます。
⑫	再生する映像を切り替えます。 全てのカメラ:フロントカメラ・360カメラ・リヤカメラの映像を表示します。 フロント:フロントカメラの映像を表示します。 360:360カメラの映像を表示します。 リヤ:リヤカメラの映像を表示します。
⑬	再生、停止、早送り、早戻し、逆再生します。
⑭	再生スピードを調節できます。
⑮	録画時の位置を地図上に表示します。(位置情報を取得している場合)



フォルダ構成について

microSDカードは以下のフォルダ構成になっています。



 各フォルダ内に保存されているデータを入れ替えたり、TZ-DR300以外のデータをフォルダ内に入れたりしないこと。

ファイル名について

録画データのファイル名は以下の規則に基づいて制定されています。

- N ドライブモード時の常時録画(NORMALフォルダ)
- M ドライブモード時の手動録画(EVENTフォルダ)
- G ドライブモード時の衝撃録画(EVENTフォルダ)
- P 駐車モード時の衝撃録画、モーション録画(PARKINGフォルダ)

2021 11 11 - 12 00 00 - 0001 N . LOG
年 月 日 時 分 秒 通し番号 動画管理ファイル

- N ドライブモード時の常時録画(NORMALフォルダ)
- M ドライブモード時の手動録画(EVENTフォルダ)
- G ドライブモード時の衝撃録画(EVENTフォルダ)
- P 駐車モード時の衝撃録画、モーション録画(PARKINGフォルダ)

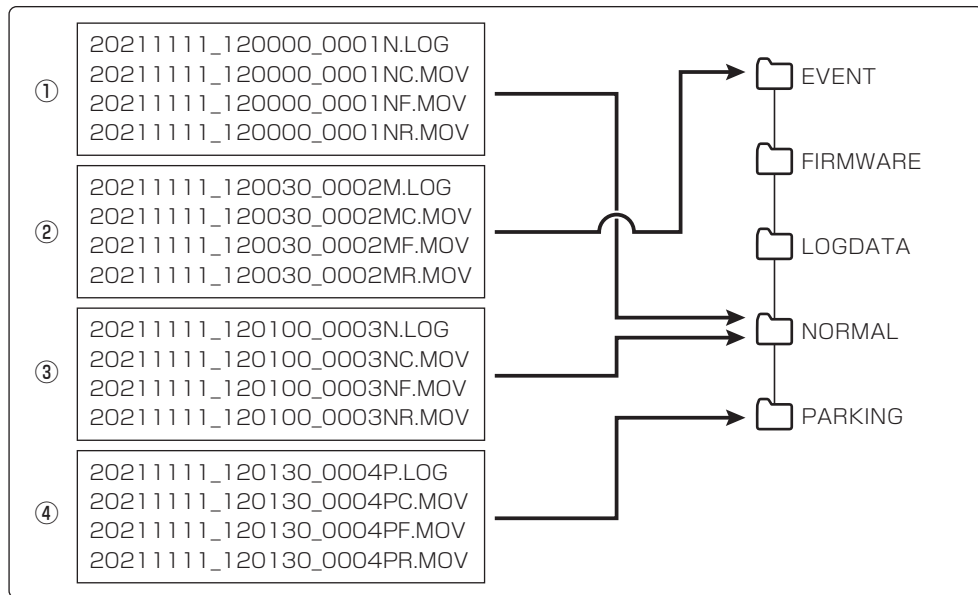
2021 11 11 - 12 00 00 - 0001 N C . MOV
年 月 日 時 分 秒 通し番号 動画ファイル

- C 360カメラの映像
- F フロントカメラの映像
- R リヤカメラの映像

! フォルダ内でファイル名を変更しないこと。専用ソフトで表示する際に不具合が生じるおそれがあります。

フォルダ内のファイルについて

録画データはそれぞれのフォルダに振り分けて保存されるため、フォルダ内ではファイル名の通し番号が連続しない場合があります。

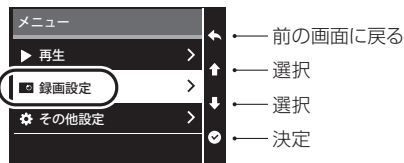


各種設定

設定の変更方法

1 メニュー画面を表示する。

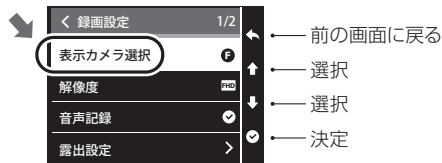
 録画中の場合はボタン1を押して録画を停止し、さらにボタン1を押すとメニュー画面に切り替わります。



2 ボタン2／ボタン3で設定を変更したいメニューを選択し、ボタン4で決定する。

3 ボタン2／ボタン3で設定を変更したい項目を選択し、ボタン4で決定する。

 項目を選択した後は必ずボタン4を押して確定してください。ボタン4を押さずに前の画面に戻ると選択した内容が反映されません。



 録画を再開する場合は、ボタン1で「待機モード」まで戻り、ボタン4(常時録画)を押すと録画を開始します。



項 目		設定内容	説 明
表示カメラ選択		F /360/R/FR	液晶画面に表示する映像を切り替えできます。Fはフロントカメラ、360は360カメラ、Rはリヤカメラ、FRはフロントカメラとリヤカメラの映像を表示します。
解像度		FHD /HD	フロントカメラの画質をFHD(高画質)またはHD(低画質)に設定できます。360カメラとリヤカメラの画質は変更できません。
音声記録		☒ (有効) ☐ (無効)	録画時の音声を記録する/しないを設定できます。
露出設定	フロント	-3/-2/-1/ 0 /+1/+2/+3	フロントカメラ、360カメラ、リヤカメラの露出を個別に設定できます。+ (プラス) 側に設定すると明るい映像で録画し、- (マイナス) 側に設定すると暗い映像で録画します。リヤガラスにスモークフィルムを貼っている場合など、調整をお勧めします。
	360	-3/-2/-1/ 0 /+1/+2/+3	
	リヤ	-3/-2/-1/ 0 /+1/+2/+3	
リヤカメラ		☒ (有効) ☐ (無効)	リヤカメラを有効にする/しないを設定できます。リヤカメラが正常に接続されている場合は常に「有効」になります。「無効」に設定すると、リヤカメラが検出できない場合もエラーを表示しません。
ビデオスタンプ	日付時刻	☒ (表示) ☐ (非表示)	microSDカードに保存する録画データ上に日時・速度・GPS座標をそれぞれ表示する/しないを設定できます。(ビデオスタンプについては62ページに詳しく説明しています)
	速度	☒ (表示) ☐ (非表示)	
	GPS座標	☒ (表示) ☐ (非表示)	
運転中衝撃感度		1/2/ 3 /4/5	ドライブモード中のGセンサーの衝撃感度を1(低感度)~5(高感度)で設定できます。

項 目		設定内容	説 明	参考 ページ
駐車監視	有効にする	●(有効) ○(無効)	駐車監視モードを有効にする／しないを設定できます。	37
	衝撃検知感度	1／2／ 3	駐車監視モード中のGセンサーの衝撃感度を1(低感度)～3(高感度)で設定できます。	41、 42
	動体検知	●(有効) ○(無効)	駐車監視モード中の動体検知を有効にする／しないを設定できます。	
	降車時 非起動時間	1分 ／5分／10分	駐車監視モードを開始するまでの時間を設定できます。	43
	録画モード	前後録画	イベント検知の前10秒と後30秒をすべてのカメラで録画します。最大12時間監視可能。	41、 43
		後録画	イベント検知の約2秒後から30秒間を360カメラのみで録画します。最大48時間監視可能。	
		前後3時間+後24時間	前後録画と後録画を組み合わせた設定ができます。	
		前後12時間+後6時間		
	最大記録時間	0.5 ／1／3／6／12時間	前後録画時の有効時間を設定できます。後録画の場合は最大で48時間が有効時間です(変更できません)。	



項 目		設定内容	説 明	参考 ページ
日付とタイムゾーン		衛星時間から設定	日付とタイムゾーンをGPSの受信により設定します。	—
		手動設定	日付とタイムゾーンを手動で設定できます。GPSを有効にした場合は、GPSを受信するとGPSで受信した日付とタイムゾーンで手動設定時間が更新されます。	
言語		日本語 / English	言語を設定できます。	—
GPS	有効にする	☒ (有効) ☐ (無効)	GPSを受信する／しないを設定できます。	—
	速度単位	km/h / MPH	ビデオスタンプに表示する速度の単位を設定できます。	54、 62
	日付表記	JP / US / HK	年月日の表示順を設定できます。JPは 年／月／日、USは月／日／年、HKは日／月／年の順に表示します。	
操作音		☒ (あり) ☐ (なし)	ボタン操作音のあり／なしを設定できます。	—
再生・通知音量		H / M / L	再生時や通知の音量をH(大音量)～L(低音量)で設定できます。	—
赤外線LED		常時オン / 手動設定 / オフ	赤外線LEDの有効時間を設定できます。昼間でも気候や環境により車内が暗くなることがあるので常時オンがお勧めですが、手動設定により夜間だけオン、などの自由な設定が可能です。赤外線LEDの特性により、映像が赤っぽくなりますが異常ではありません。	—

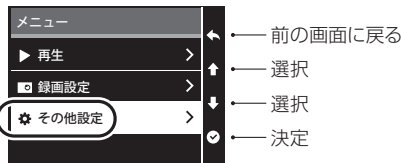
カメラのリセット

すべての設定値が初期化されます。

 リセットを行っても、microSDカードに記録されたデータは消去されません。

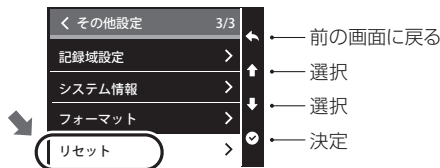
1 メニュー画面を表示する。

 録画中の場合はボタン1を押して録画を停止し、さらにボタン1を押すとメニュー画面に切り替わります。



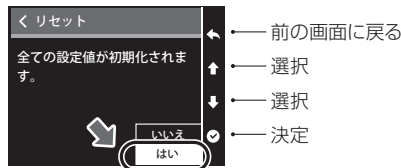
2 ボタン2／ボタン3で「その他設定」を選択し、ボタン4で決定する。

3 ボタン2／ボタン3で「リセット」を選択し、ボタン4で決定する。



4 ボタン2／ボタン3で「はい」を選択し、ボタン4で実行する。

5 リセットが実行され、カメラが再起動した後、初期設定画面が表示されます。 (28ページ参照)



その他

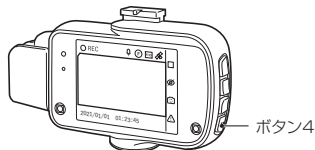
事故が起こったときは

事故発生時の録画データなど、重要なデータが上書きされないように、下記の手順でデータを保護してください。

 周囲の安全を確認してから作業すること。

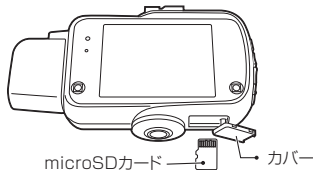
1 ボタン4を約5秒間長押しする。

 カメラの電源が切れるとすべてのLEDが消灯し液晶画面が消えます。



2 microSDカードを取り出す。(20ページ参照) 取り出したmicroSDカードの取扱いにご注意 ください。

 万が一に備えて予備のmicroSDカードを常備しておくことをお勧めします。



ファームウェアのアップデート

TZ-DR300のホームページより更新ファームウェアをダウンロードし、microSDカードに入れることでカメラのファームウェアが更新できます。

1 新しいファームウェアをパソコンにダウンロードする。

 ファームウェアは下記WEBサイトからダウンロードしてください。

<https://www.tacti.co.jp/sds/tz/>



2 ダウンロードした firmware_tzdr300.zipファイルを展開(解凍)する。

 ダウンロードした圧縮ファイル(zipファイル)を右クリックし、表示メニューから「すべてを展開」を選び解凍してください。

3 ①②いずれかの方法でパソコンに接続する。

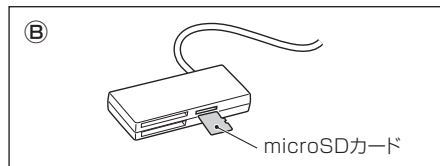
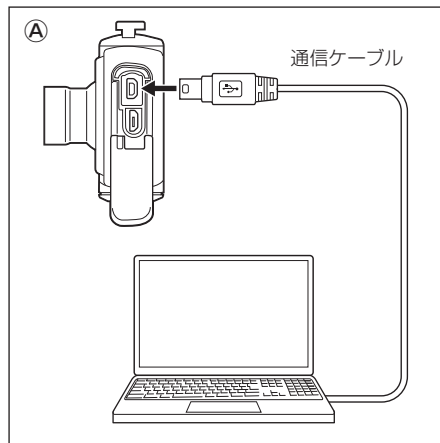
①付属の通信ケーブルでメインカメラとパソコンを接続する。

👉 メインカメラからすべてのケーブルを取り外し、通信ケーブルを電源ケーブル端子に差し込む。(27ページ参照)

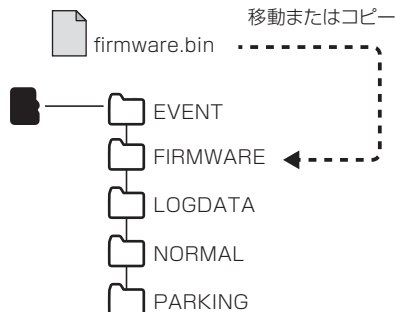
👉 通信ケーブルをパソコンに接続するとカメラの液晶に「PC接続完了」が表示されます。



②メインカメラからmicroSDカードを取り出し、市販のカードリーダーなどを使ってパソコンに接続する。



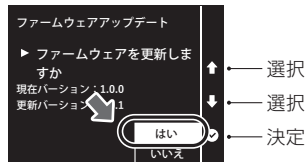
- 4** 展開(解凍)したフォルダに入っている
firmware.binファイルをmicroSDカード
のFIRMWAREフォルダ内に
移動(コピー)する。



- 5** メインカメラをパソコンから外し、駐車監視ユニットの電源ケーブルに差し替える。
またはmicroSDカードをパソコンから取り出し、メインカメラに挿入する。

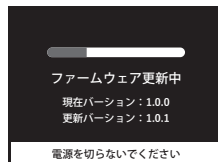
- 6** microSDカードをカメラに挿入した状態で車両のキースイッチをONにする。

- 7** 「ファームウェアを更新しますか」と表示されるのでボタン2／ボタン3で「はい」を選択し、ボタン4で実行する。



- 8** 更新が完了するのを待つ。

 ファームウェアアップデート中に電源を切らないこと。不具合の原因になります。



- 9** 完了後、ボタン1～4いずれかを押しとカメラが再起動します。

 メニュー画面の「その他設定」にある「システム情報」でファームウェアが更新されたことを確認してください(79ページ参照)。更新できなかった場合は **4** からやり直してください。

記録可能時間(目安)

-  すべてのカメラ(フロントカメラ、360カメラ、リヤカメラ)で撮影したときのmicroSDカードに記録できる時間の目安です。
-  優先する録画域や使用するモード、フロントカメラの画質によって、各録画域(フォルダ)に記録できる時間は異なります。
-  録画したデータは内容に合わせてそれぞれの録画域(フォルダ)に自動的に振り分けて保存されます。録画域(フォルダ)の容量の比率は変更することができます。(29、58、62ページ参照)
-  録画域(フォルダ)のデータがいっぱいになると古いデータから順に上書きされます。必要なデータはパソコンなどにバックアップしてください。

常時録画優先の場合

データの保存先	フロントカメラ 画質設定	32GB (DC3/同梱品)	64GB (DC4)	128GB (DC5)
常時録画域 (NORMALフォルダ)	FHD	88 分	177 分	354 分
	HD	103 分	206 分	411 分
イベント録画域 (EVENTフォルダ)	FHD	10 分	22 分	44 分
	HD	12 分	25 分	52 分
駐車録画域 (PARKINGフォルダ)	FHD	10 分	20 分	39 分
	HD	11 分	23 分	45 分

イベント録画優先の場合 (初期値)

データの保存先	フロントカメラ 画質設定	32GB (DC3／同梱品)	64GB (DC4)	128GB (DC5)
常時録画域 (NORMALフォルダ)	FHD	76 分	153 分	306 分
	HD	89 分	178 分	356 分
イベント録画域 (EVENTフォルダ)	FHD	21 分	42 分	86 分
	HD	24 分	50 分	100 分
駐車録画域 (PARKINGフォルダ)	FHD	10 分	20 分	41 分
	HD	12 分	24 分	47 分

駐車録画優先の場合

データの保存先	フロントカメラ 画質設定	32GB (DC3／同梱品)	64GB (DC4)	128GB (DC5)
常時録画域 (NORMALフォルダ)	FHD	76 分	153 分	306 分
	HD	89 分	178 分	356 分
イベント録画域 (EVENTフォルダ)	FHD	10 分	22 分	44 分
	HD	12 分	25 分	52 分
駐車録画域 (PARKINGフォルダ)	FHD	21 分	43 分	85 分
	HD	25 分	49 分	99 分

故障かな?と思ったら

故障と思われる症状がある場合、下記の対処方法を試してください。

症状／状況	原因／説明	対処方法	参考ページ
カメラの電源が入らない。	駐車監視ユニットの電源ケーブルが正しく接続されていない。または、駐車監視ユニットのヒューズが切れている。	販売店にご相談ください。	24
	本製品の付属品以外のケーブルやオプション品を使用している。	本製品の付属品や本製品が指定するオプション品を使用してください。	13～14
	カメラの動作温度範囲を超えている。動作温度範囲を超えると、カメラの破壊を防ぐため、動作を停止します。	カメラが動作温度範囲に戻ってから使用してください。	76
「リヤカメラ異常 接続を確認してください」という表示が出る。	リヤカメラケーブルが正しく接続されていない。	リヤカメラケーブルを正しく接続してください。	24
リヤカメラの映像に切り替わらない。	録画設定でリヤカメラが「無効」になっている。	録画設定でリヤカメラを「有効」に設定してください。	58～59
リヤカメラの映像が録画されない。			
360カメラの映像が赤い。	暗所でも撮影できる360カメラの特性によるため、赤みが強く録画されることがありますが、異常ではありません。	—	—

症状／状況	原因／説明	対処方法	参考ページ
液晶画面が消えてしまう。	初期設定では液晶表示時間は3分です。カメラの起動後3分で液晶画面が消えます。	その他設定で「液晶表示時間」を設定し直してください。	58, 62
時刻がおかしい。	日付とタイムゾーンが正しく設定されていない。	日付とタイムゾーンとサマータイム(日本の場合DSTオフ)を正しく設定する。	28, 58, 61
位置情報や車両速度を取得できない。	屋内やトンネル内ではGPSなどを受信できません。また、GPSなどの電波は周囲の状況や地理的要因によって、受信するまでに数十秒から数分かかる場合があります。	障害物のない見通しの良い場所でGPSなどの電波を受信できるか確認してください。	—
衝撃録画が記録されない。	センサーが衝撃を検知しないと衝撃録画を開始しません。衝撃感度が低く設定されている可能性があります。	録画設定と駐車監視設定の衝撃感度を設定し直してください。	58～60
衝撃がないのに衝撃録画を開始してしまう。	センサーの衝撃感度が高く設定されている可能性があります。	録画設定と駐車監視設定の衝撃感度を設定し直してください。	58～60
録画したデータが消えている。	microSDカード内の録画域(フォルダ)がいっぱいになると古いデータから順に消去されます。	必要なデータはパソコンなどにバックアップしてください。	69～70
再生時に音声が出ない。	録画設定で「音声記録」が無効になっている。	録画設定で「音声記録」を有効にしてください。	58～59
	その他設定で「再生・通知音量」が低くなっている。	その他設定で「再生・通知音量」を大きくしてください(Hにしてください)。	58, 61

症状／状況	原因／説明	対処方法	参考ページ
モーション録画の映像に動きがない。	車両周囲の光の変化なども動体として検知して録画するため、再生画面では動体を確認できない(確認づらい)場合があります。	—	—
駐車監視モード中の衝撃録画が消えている。	microSDカード内の駐車録画域(PARKINGフォルダ)がいっぱいになると古いデータから順に上書きされます。同じ録画域(PARKINGフォルダ)に記録されるモーション録画で上書きされている可能性があります。	記録域設定を「駐車録画優先」にしてください。	29、58、62、70
		動体検知を「無効」にしてください。	58、60
フォーマットを促す通知が多い。	microSDカードは消耗品のため、使い続けるとだんだんと書き込み速度が低下します。書き込み速度が低下し、録画できなくなる状況になる前にフォーマットを促す仕様になっています。	必要なデータはあらかじめパソコンなどにバックアップし、フォーマットしてください。	22
		新しいmicroSDカードに交換してください。	20、21
駐車監視時に設定時間よりも早く監視が終了する。	駐車監視ユニットの電圧監視機能が作動した。	電圧監視ユニットの設定値の変更、あるいは車両のバッテリー交換や充電をお試しください。	38
駐車監視時にドアを開閉するとTZのロゴが表示される。	正しい常時電源線に接続しないと車両のキースイッチOFF後、一定の時間が経過した時やドアの開閉で車両の電圧が変化し、駐車監視オプションが正しく機能しません。一部の車種は、常時電源線の判別が難しく、誤った線に接続してしまうことがあります。	販売店にご相談ください。	6

症状／状況	原因／説明	対処方法	参考ページ
車両キースイッチONの状態で駐車監視ユニットの本体LEDが点灯しない。	駐車監視ユニットのヒューズが切れている。	販売店にご相談ください。	—
車両キースイッチOFFの状態で駐車監視モードに切り替わらない。	駐車監視設定が「無効」になっている。	一度車両キースイッチをONにし、液晶で駐車監視設定を「有効」に切り替えてから車両キースイッチをOFFにしてください。	58、60

仕様

		フロントカメラ	360カメラ	リヤカメラ
撮像素子		1/2.7型フルカラー CMOSセンサー	1/2.7型フルカラー CMOSセンサー	1/2.8型フルカラー CMOSセンサー
記録画素数		約200万画素 FHD 1920×1080	約360万画素 FHD 1920×1920	約200万画素 FHD 1920×1080
		約90万画素 HD 1280×720		
視野角	水平	96°	360°	131°
	垂直	50°	190°	75°
	対角	119°	—	155°
F値		1.5	2.2	1.8
フレーム レート	ドライブモード時	27.5fps	19fps	27.5fps
	駐車監視モード時	5.2fps	5.2fps	5.2fps
補正機能	HDR	あり	なし	あり
	WDR		あり	なし

記録方式	ドライブモード時：常時録画、衝撃録画、手動録画 駐車監視モード時：衝撃録画、モーション録画
常時録画ファイル単位	30秒
ファイル形式	MOV(H.264)
GPS	あり
Gセンサー	あり
音声記録	あり(有効／無効の設定可能)
ノイズ対策	対応済み
対応記録媒体	同梱の32GB microSDカード(品番DC3) またはオプション品(品番DC3:32GB／品番DC4:64GB／品番DC5:128GB)
記録映像再生方法	メインカメラ本体 専用パソコンソフト(ホームページよりダウンロード) Windows 標準のWindows media playerなど
液晶仕様	2.7インチ フルカラーTFT液晶
外形寸法(マウント装着時)	メインカメラ:H92mm×W122mm×D47mm リヤカメラ:H59mm×W59mm×D38mm
重量(マウント装着時)	メインカメラ:206g リヤカメラ:62g
電源電圧	DC12V／24V (カメラ本体:DC5V)
最大消費電流(DC12V)	440mA
動作温度範囲	ドライブモード時：-10℃ ～ +50℃ 駐車監視モード時：-10℃ ～ +65℃
保証期間	3年間



FCC STATEMENT

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- (1) This device may not cause harmful interference, and
- (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

The unique identifier is any means to positively associate the device with the compliance test reports and records for a specific product approved using the SDoC procedure. This may be a trade name and type number, model number, serial number, or other means employed utilizing the responsible party's internal manufacturing process.

CAUTION:

Any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Note:

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

COMPLIANCE INFORMATION STATEMENT

Product Name : Dashcam
Model No. : TZ-DR300
Responsible party : Car mate USA, Inc.
Address : 383 Van Ness Ave Suite 1603, Torrance, CA 90501
Phone : 310-533-1647

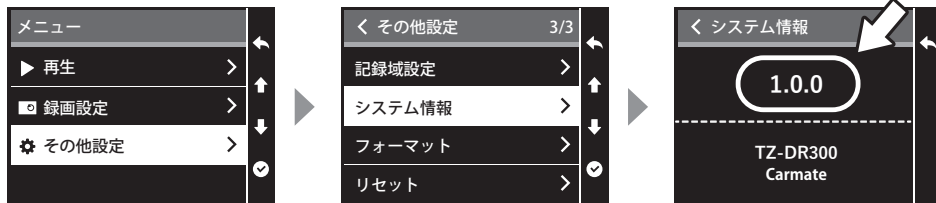
品番 V9TZDR300

品名 TZ-DR300

ファームウェア Ver.1.0.0 (2021年12月 現在)

ファームウェアの確認方法

メニュー画面の「その他設定」にある「システム情報」から確認できます。



- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- microSD、およびmicroSDHC、microSDXCは、SD-3C, LLCの登録商標です。
- 本製品はAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEに基づき、以下の場合のみライセンスされています。
 - 1.消費者の個人的利用や非営利目的で、MPEG-4 AVC規格に準拠した動画を録画する場合
 - 2.消費者の個人的利用や非営利目的で、MPEG-4 AVC規格に準拠して録画した動画を再生する場合
 - 3.ライセンスされたプロバイダーが録画した動画を再生する場合

保証規定

保証対象	メインカメラ・リヤカメラ・駐車監視ユニット ※消耗品・付属品を除く
------	-----------------------------------

1. 保証期間内(お買上げ日より3年間)に、正常なご使用状態において、万一故障した場合には無料で修理または交換いたします。
※取り付けや取り外しの作業費用はお客様のご負担となります。
2. 次のような場合には、保証期間内でも有料になります。
 - (イ) 本保証書のご提示がない場合
 - (ロ) 使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷
 - (ハ) お買上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
 - (ニ) 外部から水分などの浸入の形跡が見られる場合
 - (ホ) 火災、地震、水害、異常電圧、公害、指定外の使用電源(電圧・周波数)及びその他天災、地変などによる故障及び損傷
 - (ヘ) 本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。但し、お買上げ日、販売店名はレシートで可
 - (ト) 外観部分の損傷
3. 不正改造車に取り付けされた場合は保証対象外です。
4. 製品・部品・付属品を紛失された場合は保証対象外です。
5. 他の人から譲り受けたもの、または再販品に関しては保証対象外です。
6. 修理・交換は、必ず本保証書をご提示の上、お買上げの販売店またはカーメイトサービスセンターにご依頼ください。
7. 本保証書は、再発行いたしませんので、大切に保管してください。
8. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only for service in Japan.

株式会社 **カーメイト**



本社/〒171-0051 東京都豊島区長崎5-33-11 TEL. 03-5926-1212

保証書

本製品は、厳密なる品質管理および検査を経てお届けしたものです。お客様の正常なご使用状態で万一故障した場合には、本保証書記載内容(裏面参照)によりお買上げの販売店、またはカーメイトサービスセンターが受付いたします。

品 名	TZ-DR300		
お買上げ日	年 月 日 ※お買上げ日がわかるもの(領収書レシートなど)と一緒に保管してください。	無料修理 保証期間	お買上げ日より 3年間
お 客 様	ご 住 所 〒		
	電話番号		
	ご 芳 名		
	様		
販売店名住所	印		
故障データ	取付車種:	グレード:	年式:
	症状:		

販売元

トヨタモビリティパーツ株式会社

製造元

株式会社カーメイト

〒171-0051 東京都豊島区長崎 5-33-11

商品のお問い合わせ：カーメイトサービスセンター

TEL:03-5926-1212 FAX:03-5926-1218